

# 日本人と在留外国人が一緒になって多文化共生と人材育成に 取り組むプロジェクトをスタート 大学生が協力し、在留外国人の子どもたちがツーリズムを通し て、豊田市を盛り上げる側へ！ ～11/25 にキックオフ交流会を実施～

椋山女学園大学（愛知県名古屋市、学長：黒田由彦）情報社会学部 現代社会学科 小林かおり准教授が研究代表者を務める「豊田市発！産官学連携による在留外国人定住化に向けた多文化共生次世代育成」（公益財団法人トヨタ財団 2024.5-2026.4 助成プロジェクト）において、日本人と在留外国人が一緒になって多文化共生と人材育成に取り組むプロジェクトをスタートしました。同プロジェクトのスタートに伴い、11月25日（月）に本学星が丘キャンパスで椋山女学園大学の学生を含めたキックオフ交流会を実施します。

## 【プロジェクトの背景・考え方】

豊田市には、ブラジルからの一国集住となる地域があり、ポルトガル語で生活する住民が多いため日本語支援が必要な子どもの数も全国の中で群を抜いて多い現状です。日本語でのコミュニケーションが困難であることから、地域コミュニティから孤立して生活するだけでなく、進路および職業選択も極めて限定的になっています。

このプロジェクトでは、永住化が進む外国人居住者の中でも次世代を担う子どもや青少年に焦点をあて、キャリア教育や職業支援等を実施することで次世代育成を目指します。産官学連携、高大連携、地域連携といったこれまで培ってきた様々なアクターとの協力関係を通じて持続可能性を担保した活動を行います。地元企業の最新 AI 技術も導入し、大学進学およびキャリア説明会、職業訓練体験ツアーの実施に加え、地域を共創していくツーリズムを立ち上げることで、日本人と在留外国人が一緒になって多文化共生と人材育成に取り組むものです。

## 【キックオフ交流会の位置づけ】

上記の「地域を共創していくツーリズム」の一環として多文化共生ツーリズムマップの作成を行います。この活動により、これまで支援を受ける側であった在留外国人学生がツーリズムを通して主体的な市民として市を活性化させる取り組みに参加します。ツーリズムマップ作成はゴールではなく手段の一つと考えています。

マップ作成にあたり、在留外国人が豊田市・愛知県・東海地方のことを理解していない状況でマップ作成をスタートしたり、突然難しい歴史や地理の説明を始めたりするのではなく、楽しみながら交流をスタートする必要があると考え、世界文化遺産クイズで使用されているアプリを使ってクイズを作成し、楽しみながら、豊田市・愛知県・東海地方のことを知っていく活動をキックオフ交流として位置付け、実施します。

【キックオフ交流会】

日 程 : 2024年11月25日(月) 13時から15時

場 所 : 椋山女学園大学 外国語学部棟 418 教室

参加者 : 椋山女学園大学学生 10名・教員 1名 伯人学校イーエーエス豊田生徒 42名・教職員 4名 (ほか)

【当日スケジュール(予定)】

11:00~ 伯人学校イーエーエス豊田到着・学食で昼食

昼食・カフェ利用後 グループごとの学内見学ツアー(本学学生が案内)

※上記は取材公開いたしません。

13:00~

(1) ツーリズムに関する講演(10分~15分 担当: ツーリズムとよた)

(2) グループでの文字起こし機器もしくは音声通訳アプリの確認(担当: 参加学生全員)

(これまでの交流授業で、日本語ができる学生に双方のコミュニケーションを頼りがちになる傾向が見られたため、その解決方法を学生と考え、文字起こし機器もしくは音声通訳アプリを使用します。大学とイーエーエス学生両者が、各自使用予定の文字起こし機器もしくは音声通訳アプリを事前に準備し、必要に応じて交流授業で使用します。)

(3) クイズ作成アプリを使用した豊田市・愛知県・東海地方のツーリズムに関する二言語のオンラインクイズ作りの活動  
(担当: 参加学生全員)

(4) 発表・お互いのクイズの回答時間

(5) 集合写真

15:00 解散

【参加プロジェクトメンバー】

伯人学校イーエーエス豊田、(一社) ツーリズムとよた、豊田市国際まちづくり推進課、三井物産株式会社、NPO 子どもの国、株式会社アイシン(技術提供)

【本件に関するお問合せ先】

学校法人椋山女学園 広報課 担当: 渡部

TEL: 052-781-5940

メールアドレス: [kouhou@sugiyama-u.ac.jp](mailto:kouhou@sugiyama-u.ac.jp)